

令和7年度 第2回 村櫛小学校学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年11月6日（木） 13時30分から15時30分まで
※途中でクラブ活動見学（14：40～15：00）
- 2 開催場所 村櫛小学校 3階 会議室
- 3 出席委員 徳増 久子、遠山 通夫、徳増 善幸、藤田 善人、柴田 宜克、田中 奈緒子
新村 達也、中村 晃子
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 藤田 伸幸（村櫛幼稚園前園長）
- 6 学 校 石塚 稚人（校長）、宮本 直子（教頭）、鈴木 亨（教務主任・CS担当職員）
吉田 真季（CSディレクター）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 吉田 真季
- 9 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、徳増久子委員から徳増善幸委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

10 熟議事項

- （1）令和7年度前期の学校の取り組みと課題について
- （2）令和8年度以降の課題について
- （3）令和8年度の学校運営方針や取り組みについて

11 会議記録

司会の宮本直子教頭から、委員総数8人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）令和7年度前期の学校の様子について

鈴木亨教務主任から別紙に基づき令和7年度前期の学校の様子について説明があった。

今年度は読書指導に力を入れており、本に親しむ為の展示や読み語りなどを一層充実させている。その成果が徐々に表れてきた。また、新しい学びのスタイルとして「子供に学びを委ねる」授業に挑戦している。主体的に課題に向き合い自分で選んだ方法や相手と共に学びを深めていく授業を目指して研修を行ってきた。それを算数教育研究会にて披露する予定。その成果もあり全国学力・学習状況調査では算数が大きく全国正答率を上回った。

一方で、児童数減少と共に地域人材・素材の減少の面が課題であり手立てを講じたい。委員からは、以下の発言があった。

- ・力を入れている所の成果が出てきている。『算数の村櫛小学校』として色々な事を既に取り組み、テーマを考えるのが難しくなっている。算数と自然が繋がっていく、子供たちが感動するような算数体験がもてると良い。（徳増久子委員）
- ・小規模校のアットホームで良い所がたくさんあるが、近年の入学者数の少なさに驚いた。（柴田宜克委員）
- ・自治会は地縁としてあるので村櫛の文化・歴史の体験を提供していきたい。先日、庄内中の行事に参加してきて、村櫛小の子供たちがドラムなど自己表現として発表していて誇らしかった。村櫛の未就園児対象『ひよこの会』に参加した子供たちが小学生になっても声をかけてくれるのは嬉しい。この繋がりがもっと広がればいいと思う。（遠山通夫委員）
- ・明治からの地域が発展していく干拓の歴史について学ぶのはどうか。浜名湖大橋ができるまでを学ぶのもよい。（藤田善人委員）

- ・現在の高齢者との関わりを教えてほしい。(徳増善幸委員)

→コロナ以降、関わりが少ない。これから4年生の活動として立ち上げたい。1・2年生の生活科でも地域との関わりを。(鈴木亨教務主任)

- ・現在ある部活動を教えて欲しい。(徳増善幸委員)

→現在は週2回の音楽部のみ。庄内協働センター祭り出演を目標に活動している。浜松市主催の記録会がなくなり、水泳部・陸上部もなくなった。しかし、村櫛のタグラグビーに学年の約半数が在籍している。地域の方が技術だけではなくマナーもしっかり指導してくれている。(鈴木亨教務主任)

- ・子供の頃、サッカー少年団で地域の指導者からマナーも教えてもらった。また、地域の活動で木工制作が心に残っている。回覧板で地域の活動を周知してもらう為に発信していいかどうか。教えたい人も出てくるかもしれない。(新村達也委員)

(2) 令和8年度以降の課題について

宮本直子教頭から別紙に基づき令和8年度以降の課題について説明があった。来夏の熱中症の対応として、登下校にヘルメットではなく各家庭の判断で帽子の着用について検討中である。児童数の減少に伴い、卒業アルバム、修学旅行の業者策定など今後の課題となっている。また、家庭数の減少でPTA活動もスリム化する必要がある。委員からは、以下の発言があった。

- ・ヘルメットについてはPTAの役員会でも話し合った。各家庭へのお知らせはまだしていない。6年生は中学のヘルメットを先に購入できるか確認中。熱中症対策としてヘルメットでも帽子でもどちらもリスクがあるので各家庭の判断で願います。(新村達也委員)

- ・卒業アルバムはパソコンに写真を入れて編集して自分達でやっていくしかない。(柴田宜克委員)

→他の小規模校は手作りやネット注文、保護者が撮影を行い工夫している。(石塚稚人校長)

- ・修学旅行は他校と一緒にいくのはどうか。(徳増善幸委員)

(3) 令和8年度の学校運営方針や取り組みについて

石塚稚人校長から別紙に基づき令和8年度の学校運営方針や取り組みについて説明があった。今後の最大の課題は児童数の減少である。だが、逆にそれを売りにしたい。少人数の強みとして一人一人を大切に作る学校であることを押し出して、個別指導や非認知能力が育つ学校教育環境を軸として魅力ある学校へしていく。委員からは、以下の発言があった。

- ・「一人一人が活動できる」ところやアンケートで99%の子供たちが楽しく学校に通えているという回答が素晴らしい。今ある良さを大切に、手を広げすぎないで特色を出していくことが大事だと思う。(田中奈緒子委員)

- ・子供の学校に関わる気持ちが親にあれば学校の良さがもっと伝わり、村櫛小に入学したい子供たちが増える。(中村晃子委員)

- ・浜松市は学区外で小学校に通える。行きたい学校として村櫛小が選ばれる、そういうのもいいのではないかと。ダイナミックな活動をアピールする手助けが出来る地域の協力隊も沢山いる。(徳増久子委員)

その他の連絡事項等

宮本直子教頭から、次回会議は令和8年2月6日(金)午後1時20分から3階会議室で開催する旨の報告があった。なお、協議内容については、「学校運営協議会の自己評価」であることが示された。第3回議長の選出について、徳増久子会長から徳増善幸委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。